

キャベツ
甘藍の碑
建立式典

日時：平成10年10月6日

会場：JA東京あおば 石神井支店

キャベツの碑建立実行委員会

練馬の甘藍

キヤベツ

キヤベツが練馬大根に代わり練馬区の特産物になったのは、多年の連作障害により練馬大根の栽培が困難になった昭和八年頃からである。

キヤベツ生産者は幾多の障害を、栽培技術の向上・優良系統の選抜などたゆまぬ努力で克服し、練馬区は全国でも有数の生産地となり、都市農業の礎を築いてきた。

昭和四十八年高騰する消費者物価を抑制し、都民に新鮮で安全な野菜を安定供給することを目的に、東京都は「東京ふるさと野菜供給事業」を練馬・石神井・大泉の各農業協同組合との間で締結した。

その後、この事業は東京都全体に広がり、生産量も増加し初夏産・秋冬産の年二回の東京キヤベツは、東京都中央卸売市場で不動の地位を得て、今日まで都民の食生活に大きく貢献してきました。

ここに、東京ふるさと野菜供給事業二十五周年を記念して、練馬区の特産物「キヤベツ」を後世に伝え、生産者の労を称えるため、甘藍の碑を建立するものである。

平成十年十月吉日

キヤベツの碑建立実行委員会

甘藍キャベツの碑建立式典次第

一 除幕式

二 開会（直会）

三 実行委員会委員長挨拶

四 経過報告

五 来賓祝辞

六 乾杯

七 懇談

八 中締め

九 閉会

ご挨拶

昭和四十八年に、練馬・石神井・大泉の農業協同組合と東京都の間で締結された「東京ふるさと野菜供給事業」の二十五周年を記念して当地JA東京あおば石神井支店に「甘藍キャベツの碑」を建立でき大勢の皆様のご臨席のもと式典が執り行えますことを心から感謝を申し上げます。

練馬のキャベツは、碑文にもあるとおり練馬大根にかわり昭和二十五年から導入され二十八年には作付けが百八十八ヘクタールにも及び都内最大のキャベツ産地へと発展し、平成二年天皇陛下のご即位に伴う大嘗祭には庭積机代物のひとつとして練馬のキャベツが供納されるなど、全国的にも有数の産地として市場からも評価を得ています。

この記念碑は、このような練馬区における農業の歴史を末永く子や孫たちに伝え、練馬の歴史にさん然と輝く農業の存在を認識してもらえばかりか、この地を訪れる人達に、国民の食生活を守ってきた農家のひたむきな努力を理解していただくため、建立したもので、多くの人々の目に触れ地域のシンボルとして残してゆきたいと思えます。

最後に、記念碑の建立にあたり関係者並びに各行政機関等のご理解とご協力をいただきましたことに厚くお礼を申し上げ挨拶といたします。

平成十年十月六日

キャベツの碑建立実行委員会

委員長

加藤 博 彰

経過報告

一 平成八年十月 長年の念願であったキャベツの碑建立について、生産者代表から意見が出される。

二 キャベツの碑建立検討委員会の開催

平成八年十二月四日に第一回目の検討委員会を各地区生産者代表により開催し、キャベツの碑建立の趣旨等について協議を行った。

その後二回の検討委員会を開催し、キャベツの碑建立及び実行委員会の設置等について検討を行った。

三 キャベツの碑建立実行委員会の開催

平成九年二月十七日に設立準備会を開催し、実行委員会の規約・委員等について検討を行った。

三月十日に、建立について岩波練馬区長にも協力を求め意見交換を行った。

三月十四日には幹事会の開催を経て三月二十七日に第一回キャベツの碑建立実行委員会を開催し、キャベツの碑建立について議決を行った。

その後、幹事会で浦安市の「漁業記念公園 記念碑」の視察を行い、七月二十八日の第二回実行委員会で建立場所をJA東京あおば石神井支店前駐車場に決定する。

実行委員会六回・幹事会五回を開催し検討を行った。

平成九年十一月六日に二社によるプレゼンテーションを実施し絞り込みを行い、十二月十日の実行委員会で（株）コトブキの「甘藍キャベツの碑」に原案を決定した。

四 キャベツの碑建立

実行委員会で、全体の像・碑文等の検討・決定を受けて、六月二十三日にキャベツ（錦秋）より型を取りオブジェの作成に取りかかり、八月二十四日には、絵の彫り込みを開始し、つづけて碑文及び裏面の氏名の彫り込みへ進み、八月二十六日には碑の彫り込みの状況を確認するため事務局が工場を訪ねた。その後九月一日には、現地において関係者を集めてキャベツの碑建立地鎮祭を執り行い、九月十六日から組立が始まり、本日十月六日除幕式を地元氷川神社宮司にお願いし開催する運びとなった。



キャベツの碑
 建立実行委員会

委員長

加藤源蔵

副委員長

八方久雄

野瀬廣信

参与

橋本晴夫

小林良次

木村仁作

幹事長

渡戸章

副幹事長

石塚勇

早川一

委員

吉田梅男

五十嵐行男

神田耕

尾崎吉弘

星野茂

井之口喜實夫

加藤和雄

五十嵐鉄治

井口留弘